

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流」を理念に取り入れている。	○	理念について具体的に実践方法を話し合い、行っていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝提唱し、実践に向けて努力している。	○	職員は理念を覚えてはいるが、それを日々の生活の中でもっと活かせるように、互いに協力し合って向上していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	推進会の時や、入居に際する説明のなかでお話ししている。	○	以前から入居されている方のご家族とはとりたてて理念とっては説明していないので、皆さんにひろく理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に近所の方とは親しくおつきあいさせていただけるよう、交流の機会を作っている。散歩途中での声かけや挨拶、近隣の店の利用、行事へのお誘い、相談室の地域への開放など、努力している。	○	ホームの存在さえ知れ渡っていなかったが、やっと知っていただき、近隣の方々とも馴染みができて、気軽に立ち寄っていただけるようになった。今後も良い関係を続け、発展させていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事の情報を集め、可能な限り参加させていただいている。地域の方からの声かけやお誘いもいただくようになった。避難訓練には地域の方も参加して下さり、協力体制を話し合った。	○	推進会で、奉仕活動(神社の草とりなど)や地域のクラブ活動への参加を話し合ったので実現させたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者との交流を持ち、会話の中で情報を提供している。 手伝いの必要な時はいつでも声をかけていただけるよう呼びかけている。「なにかの時には助けてよ。」と頼まれることもある。	○	具体的にどのように役立つことがあるのかを地域で話し合い、実行していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘に基づいて改善に努めている。	○	評価されたことに対して皆で協力して改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において、評価の報告をし、サービス向上について話し合っている。	○	推進会からの提案の中で、実行に至っていないことを進めていかなければならない。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外では、担当者との行き来は広報活動や書類提出時が主である。	○	サービスの質向上に向けて努力したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々に勉強している職員もいるが、全体には浸透していない。 現在、利用している人や必要とする人はいない。	○	勉強会を開き、全職員が制度について理解し、必要な人がいたら適切な支援ができるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の冊子などを全員が読み、折にふれて話し合っている。 虐待や拘束のない介護をめざし職員一丸となって実践している。	○	今後も勉強し、虐待のない支援を徹底する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時、契約日に十分に話し合い、説明をし、納得した上で入居していただいている。入居してからも疑問や不安があれば、その都度対応し、解決している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満は直接職員に訴えることが多いので、職員間で共有し、話し合い、反映させている。	○ だれもが意見や苦情を遠慮せずに口にできる関係を作っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りだけでなく、家族の面会時には日常の様子などを細かくお話させてもらい、コミュニケーションに努めている。あまり来られない家族には、電話で近況報告をし、また、変わったことがあれば、その都度報告している。	○ どの職員が対応しても的確に伝えられるように、職員間で共有したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。 推進会や面会時の会話の中で得た意見などは反映させる努力をしている。	○ 家族会への参加を呼びかけ、また、意見や不満を遠慮なく言っていただけるような関係を築きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、管理者が聞いた上で話し合いの機会を設けている。適宜、運営者に報告し、反映に努めている。	○ 定期的に全員参加の会議の場を持つようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	業務改善に努めている。	○ 柔軟な対応ができるように、勤務形態などを調整したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットはほぼ固定の形にしているが、出勤の形態によっては他ユニットでの勤務はある。ダメージを防ぐ為に2ユニット全体で馴染みになれるように行き来している。利用者の顔ぶれも変わる為、職員配置の微調整はしている。	○ 職員と18名の利用者全員が馴染みになれるよう、また、職員は全利用者を把握できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員より希望があれば、研修等への参加を認めている。 法人内の研修会にも参加してもらい、感染予防や栄養面での知識をつけてもらうようにしている。	○ 認知症ケアについてもっと院外での研修を取り入れ、さらなるケアの質の向上できる人材の育成に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加し、積極的に勉強会に参加してもらうよう指導している。	○ 他のグループホームとの交流を活発に行えるよう計画を立て職員の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に2回法人全体での食事会を開いている。 法人でフットサルのチームを作り、自由な参加を募っている。	○ 風通しの良い職場環境をつくり、問題点等を職員間で言いやすいように努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の実績を人事考課において評価し、モチベーションを上げられるように努めている。	○ 定期的に職員を集め、勉強会やミーティングを行い、各自スキルアップできるようにしていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来られたり、入居申し込みから入居日までに日数がある方に対しては、自宅や入院先を訪問し、お話を聞かせてもらっているが、信頼関係までには至っていない。 相談、即入居のことが多い。	○ 入居までに本人とコンタクトをとれるようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	問い合わせや見学の時点から、困っていることや状態などをきかせてもらい、ホームの説明や、入居に至らなくとも役立てていただけるよう疑問や質問にお答えしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向を聞いたり、情報提供書や支援に携わってきた方の情報をもとに、社会資源の活用も含めた支援の方法を考えている。	○	必要とする支援を見極める力をつけたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	性格、趣味、嗜好などの事前情報をもとにユニットを決定したり、食堂での席を配慮し、自然に馴染んでいただけるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの伝統や習慣、季節の催事を教えてもらったり、困った時に知恵を借りたりしている。いつも側にいることで、喜怒哀楽を共有している。	○	これからも寄り添うことで、共に支えあう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事にもお客様としてでなく、支援する側として参加していただき、職員と一緒に本人を支えてくれるように働きかけている。他の利用者とも馴染み、本人との関係をサポートしてくれている。	○	もっとたくさんの家族の支援を呼びかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の生活の様子を報告し、家族が安心したり喜ぶように手紙や写真を送るようにしている。個々の関係性を職員で周知し、仲介している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、近所の方々の面会時間を決めず、自由に行き来できるよう努めている。また、外泊なども自由にできるため、家族や知人と旅行などする人もいる。	○	馴染みの場にももっと顔出しできるような支援に取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者にも人間関係があり、気の合う人合わない人があったり、いざこざもあるので、職員が間に入り関係づくりに努めている。また、みんなでいっしょに出かけたり、楽しみながら打ち解けるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院など、退居されても様子を見に伺ったりしている。家族とも関係を継続し、利用者を気にかけてくれたり、地域の一人としてホームのために力を貸して下さる方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、声かけや話し合いを持ち、意向の把握に努めている。困難な場合も日々の関わりの中から汲み取るものがあったり、本人本位に検討している。	○	知り得た情報を職員間で共有し、検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に話を聞かせてもらい把握に努めている。情報が少ない方は、昔話などから生活環境を探る努力をしている。また、近所の方や友人の面会時などにも差し支えない範囲でお話を聞かせてもらえることもある。	○	サービス利用の様子を詳しく把握できるよう、在宅サービスとの関わりを密にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	見守りや様子観察、会話をすることで現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とは話をしたり、日常の生活の様子や他の利用者との関わりを見ながら意向や課題を把握し、また、家族様からも要望を聞いたり、相談をして作成するようにはしている。	○	意見を引き出す技術を身につけたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて3ヶ月に1回の評価、見直しを行っている。各利用者の担当職員は毎月、介護経過とともに、目標の達成度、今後の対応をモニタリングしているので、変化があれば、家族に相談したり、職員間で話し合って対応している。	○	変更した計画書を迅速に作成しなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて、月単位の生活記録、モニタリングを作成しているため、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の出来事や様子の記録内容が乏しいので、書き方を学ぶ機会を持ち、誰が読んでもよくわかるよう充実させたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人を活かし、重度化した場合や緊急の対応等の支援をしている。また、訪問看護ステーションとの医療連携体制により日々の健康管理、相談を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方との協力関係ができた。	○	地元の学校との協力、サークル活動の計画があるので、実践していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	県、市町村のサービスを利用し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡もとって本人の必要性に応じた支援をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人である母体での受診や、歯科、皮膚科、眼科の協力医療機関の受診に加えて、希望があれば通い慣れたかかりつけ医への受診のサポートもしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週1回の専門医の往診を受け、職員が相談したり、経過を見て指示を出してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの連携を図り、馴染みの看護師と相談しながら健康管理や医療活用の支援をしている。	○	これからも連携を密にし、利用者と看護師がもっと馴染んで何でも相談できる関係を作りたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院について病院との情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に文章にて確認してもらっている。 また、早い段階から医師に相談したり、家族に状態を報告し、話し合いを行って方針を確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期に向けてホームでできること、できないことを見極め、医師や看護師と相談しながら支援している。	○	ホームでどこまで対応できるかというところもあるが、慣れ親しんだところでもあり、入院してもホームに帰りたいと言ってくださる方もいるので、ターミナルケアについても慎重に検討したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時、他施設など別の居所へ移り住む際は、十分な情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取り扱いに関しては、入居時に説明し契約書を交わしている。 一人ひとりに対する言葉かけや対応、記録などにプライバシーへの配慮をしている。名前の表示、問い合わせなどについても家族と相談して確認している。	○ 生活の中で、利用者間でのプライバシーの確保をもっと徹底できるように努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望が表せるような雰囲気づくりに努めている。自分のしたいこと、したくないことを自己決定できるように支援している(生活のペース、行事内容、行き先、食事、役割など)。できないこともわかるように説明し、折り合いをつけ納得できるように支援している。	○ 少しでも多くの希望が叶い、自分のことを自分で決める自由を持てる支援を続けたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常の流れはあるが、それまでの生活のペースを大切に、体調や気分にあわせて希望にそえるよう配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容についてはホームでの出張カットがあるが、希望があれば地域や馴染みの店に送迎している。ホームで髪染めもできる。 洋服やおしゃれ小物を買ったり、化粧をしたり、自由に楽しんでいる。	○ 年相応のおしゃれや身だしなみができるように気を配りたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の食べたいものを出している。おやつなどは話し合っ、一緒に作れるものは準備から参加してもらっている。難しい人にもほんの少しでも参加できるよう工夫している。一部だが昼食の一品を作ったり、洗い物や片づけをする人もいる。	○ もっとたくさんの方に、できれば男性にも参加してもらいたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に楽しめるよう支援している。 疾病等ある方は職員が管理し、体調にあった支援に努めている。 食事を止めて外食を楽しむこともある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録し、適切な声かけや誘導をすることで失敗を減らせるよう支援している。 夜間もトイレやポータブルトイレで排泄できるよう、支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を参考に声をかけて入浴してもらっているが、自分で入浴できる方には曜日や時間を決めておらず、浴室が空いていればいつでも好きな時間に入浴してもらっている。	○	浴槽につかれない方には足浴をしながらシャワー浴をしてもらっているが、法人所有の施設と連携し、時々、特殊浴槽を使ってつからせてあげたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に体調の変化に気を配り、居室の照明や温度調節に気をつけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴の中から、得意分野や日々行ってきた仕事を役割として活躍してもらっている。その人のできる力にあわせて張り合いを持てるよう工夫している。	○	もっと楽しみを増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は本人が持ち、買い物等の支払いも自分でしている。ほとんどの方は預かり金により出納管理を行い、面会時に家族の方に確認してもらい、サインをもらっている。 本人の精神安定のためにお守り代わりに持っている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって日常的に戸外へ出ている。 天気の良い日は庭に出て日光浴をしたり、近所を散歩したりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	配車の手配をし、行事参加や、季節ごとに花や景色を楽しめるように個別またはみんなで頻回に外出している。全員で外食や観光も楽しんだ。 家族と出かけたり、旅行する方もいる。	○	家族や近所の方と一緒に出かける計画があるので、実現したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいと希望があったとき、かかってきたときは自分で話をしてもらったり、必要に応じて職員が側について話の取り次ぎの支援をしている。 今年は年賀状を書いてもらった。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めてないので、いつでも気軽に訪問していただき、居室でゆっくり話をされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合に備え、家族に身体拘束の同意書はもっているが、全ての職員が身体拘束をしないケアの意識を強く持っており、実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の扉の鍵は利用者が自分の意思で内からかけることはある。 玄関は外側は押しボタン、内側は暗証番号で自動ドアが開くようになっている。施錠の弊害は理解しているが、すぐ前が国道で交通量も多いので施錠している。職員が近くにいる時は開け放していることもある。	○	ベランダ側の扉は開く幅を調節しており、外に出られないので、利用者の状態に応じて外す方向で考えていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室する時は本人の了解を得、訪問する時は声をかけてから、夜間はそっと見守りを行っている。職員はいつでも必ず利用者の所在や様子を把握し、安全管理に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持ち物チェックは行っており、注意の必要な物品でも一人ひとりの心身の状態に応じて危険であれば預かるようにしている。 預かった場合でも申し出があれば、職員の見守りのもとで使用してもらっている。	○	本人の自信とプライドを損なわず危険のないように支援していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や窒息、誤薬防止の知識は職員間で学び、工夫し、防災については避難訓練や、消防署の指導、また、行方不明などの地域を含めた協力体制にも取り組んでいる。	○	事故のないように細心の注意を払っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員は講習会にも自発的に参加している。マニュアルは作成してあるが、訓練を定期的に行えてはいない。	○	定期的に講習をし、取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難や二次事故の回避のための協力体制を地域推進会などで話し合いを進めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて予測し、家族に説明し、状態に応じて医師からの説明もしている。できるだけ制限や抑圧感のないよう、家族に理解を得るよう努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや、様子観察をし、体調の変化や異変の早期発見に努めている。発見時は訪問看護の指示や直接医師の指示を受け、早期対応に結びつけている。	○	日頃の様子を確認し、異変のサインを見逃すことのないよう注意したい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方については投薬管理表を作成して品名、用法、いつまであるかを確認しやすいようにし、説明書を読むことで目的や副作用の確認をしている。誤薬のないように薬は服用時間によって色分けしたラインを引き、日付、医師名を入れて個別にケース保管し、服薬チェックを記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックや水分量、食事量チェックを行い、調整している。また、歩行訓練や適度な運動で体を動かすよう働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけや介助により口腔ケアを実施している。	○	定期的に専門的な口腔内チェックを行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェック、必要に応じて食事内容のチェック(食べたもの、残したもの)を行っている。食材や一人ひとりの咀嚼や嚥下の状態に合わせて、刻んだり、つぶしたり、トロミをつけたりと形態を工夫している。必要量が食べられない方には、濃厚流動食品で補うこともある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策をマニュアル化し、互いに注意喚起している。インフルエンザについては全職員、利用者が予防接種を受けている。	○	手洗い、うがいの励行を続ける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所調理器具、布巾、食器の消毒、冷蔵庫内の掃除と食材のチェックを行い、衛生管理に努めている。	○	食材を有効に利用し、常に新鮮なものを使うよう工夫したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ドア付近がガラス張りになっており、閉塞感がない。ポーチ付近には花やベンチを置き、よく利用者が座っておしゃべりしているので、近隣の方も親しみをもって出入りしてくれている。	○	もっときれいに環境を整えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の利用者作品や、花、小物を飾って季節感を出す工夫をしている。浴室、トイレなどは清潔とにおい対策に力を入れている。ソファや和室にクッションやぬいぐるみ、コタツ、座布団などを置き、家庭での環境に近づける工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い南側にソファを置き、座ってテレビを見たり、うたた寝をしたりと思いつろいでいる。利用者同士も空いている椅子に自由に座っていっしょにすごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品を持ってきたり、写真や小物を置き、家族と相談しながら居心地のよいようにレイアウトしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行い、温度管理している。 加湿器がないので、居室に濡れタオルをかけたり、フロアに洗濯物を干したりして乾燥対策をしている。 特に、不快なおいがないよう、衛生管理やにおい対策を工夫している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は和室の境界以外はバリアフリーである。 廊下、トイレ、浴室などには手すりを設置し、安全に配慮している。 居室内では身体機能にあわせて家具やベッドの配置をし、安全で自立した生活ができるよう工夫している。	○	環境整備に努めたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室の標示をわかりやすくし、各居室の入口には、名前を大きく表示したり、干支やリボン、人形など、独自の目印をつけ、わかりやすく工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横の日当たりの良い場所にベンチを設置し、日光浴や休憩に座れるようにしている。庭には木や花、イチゴを植え、みんなで手入れをし、成長を楽しんでいる。	○	空いている土地を利用して、畑を作り、野菜などを利用者といっしょに作れるよう検討している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 地域に対して事業所の存在を知ってもらい、つながりを広げていくために積極的に働きかけている。  
近隣の方の支持を得られるようになり、気軽に立ち寄ってもらえるようになった。  
ホーム内のスペースを地域に開放し、利用してもらえるように呼びかけている。
- ・ 利用者の方が窮屈な思いをせず自然体でいられるように、職員の言葉かけやケアの改善に取り組んでいる。  
一人ひとりがその人らしく自由に過ごせるようになり、ユニットが明るい雰囲気になった。
- ・ ホームに閉じこもらず外出の機会を多く設け、季節ごとにいろんなところへ出かけたり、イベントなどの楽しみを増やせるよう取り組んでいる。
- ・ 昔ながらの行事の再現に取り組んでいる。